

2012年度

リカバリーサポート・ネットワーク 電話相談事業概要

特定非営利活動法人
リカバリーサポート・ネットワーク

代表理事 西村直之

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)が、ばちんこ依存問題に特化した電話相談窓口を開設してから7年が経ち、相談件数の総数は9202件となった。

2012年度(2012年4月～2013年3月)は、2562件の相談が寄せられた(図1)。相談件数は、前年度の約2.3倍に増加し、月平均相談件数も213.5件(2011年度94件)と急増した。パチンコ・パチスロの遊技参加人口が減少するなかで、相談件数が急増したのは、遊技業界がのめり込み問題の啓発活動に積極的に取り組み始めたためである。2012年9月に開設以来はじめて月相談件数が200件を超え、10月、11月には300件を超えた。12月以降は、月280件前後での相談件数で推移している。遊技参加人口が減少しているとはいえ1000万人を超える参加者があり、問題あるパチンコ・パチスロユーザーも未だに多数存在し、解決支援を必要としている。

電話相談につながった相談者の関係性の内訳は、「問題を持つ本人からの相

談」が83%、「家族・友人」が16%であった。RSN開設以来、本人の比率は毎年増加しているが、2012年度はさらに本人からの相談比率が高くなった。(表1)。遊技業界のRSN啓発推進により、ホールでの情報取得を経由して相談につながった人が増加したため、相談者全体に対する本人比率が高くなったと考えている。

相談者の年齢分布は、30代が最も多く(28%)、次いで40代(22%)、20代(22%)であった(表2)。パチンコ・パチスロを取り巻く環境は日々変化を続けているが、10代から80代まで幅広い年齢層に問題を抱えている状況は変化していない。RSNの電話相談につながるまでに、他の機関での相談経験がある相談者は18%に過ぎず、RSNが問題解決支援の入口として果たしている役割は大きい。

電話相談を利用するきっかけとなったのは、ホール内に掲示してあるポスターが最も多かったが(54%)、2011年度に比べてホール内ポスターの比率は10%低下した。広報手段としてホール内ポスターの有効性が高いことは、ポスター掲示の取組みにより相談件数が

激増したことから明らかであるが、遊技関連の雑誌によるRSNの活動紹介やポスター掲載、RSNの電話相談窓口が掲載されたポケットティッシュの配布(東遊商が作成・配布)、RSNの電話相談窓口が掲載されたステッカー(日遊協が作成・配布)など、啓発手段の多様化が相談件数の増加につながった(表3)。

都道府県別の相談件数は、東京都の205件が最も多く、東京、神奈川、大阪、千葉の4都府県は、相談件数が100件を超えた。2011年度は、相談件数10件未満が23県あったが、今年度は9県に減少した。国外在住者(家族)からの相談も寄せられた。相談のほとんどが、「やめ(させ)る方法」「家族の接し方」「地域の相談先」についての知識や情報の入手を期待して利用していた。逆に「借金の返済方法」の相談は、わずか27件であった。相談の内容は、「やめ(させ)る方法」が最も多く、次いで「家族の接し方」、「地域の相談先」であった。相談者のほとんどは、依存問題の相談電話であることを認識しRSNを利用している。

転帰としては、RSNの電話相談で留め、他機関を紹介せず終了するケー

スが年々増加している。開設時は、他機関紹介が80%を超えたが、今年度は50%台にまで減少した。まずは自分でできることを教えてほしい、という相談者のニーズに添っているためである。問題解決に役立つ情報の提供と並行して、問題解決に向けた行動変化を起こしてもらうことを目指し、相談員は、他機関の紹介に至らなくても地域の社会資源の存在を可能な限り相談者に提供するように心掛けている。紹介先としては、問題を持つ本人に対しては、主に問題ギャンブラー本人の相互援助グループ「ギャンブラーズ・アノニマス(GA)」を紹介することが多い。家族・友人には主に各県にある「精神保健福祉センター」や問題ギャンブラーの家族の相互援助グループ「ギヤマン」を紹介することが多い。既に精神科・心療内科に通院中の方には、原則的に主治医に相談するように伝えている。紹介できる社会資源が量・質ともに絶対的に不足している現状は、2011年度と比べても変化(改善)は見られていない。

問題を持つ本人の詳細

2012年度 リハビリサポート・ネットワーク電話相談事業概要



問題をもつ本人からの相談を詳細に見てみると、雇用形態としては、常勤が最も多く(52%)、次いで非常勤(19%)、扶養のみ(17%)であった。遊技業界の調査による一般の遊技参加者の職業構成と比べて、相談者では「常勤」の割合が高い印象を受ける。「常勤」の人では、収入が確保され、使うお金が自由になりやすいため依存レベルまでのめり込みやすいのかもしれない。全く視点を変えれば、「常勤」で遊技が続けられている人は、問題意識を持ちやすく、電話相談という対処行動を取る率が高いという可能性も考えられる。雇用・収入形態が異なれば、問題の様式も異なることが推測されるため、今後さらに詳細な検討を加えていきたい。

雇用形態を性別で見ると男性に比べて女性では、常勤が少なく、非常勤、給付、扶養のみの人が多い。パート、専業主婦、年金生活の方などが、男性よりも女性に多いためと考えられる。女性にのめり込み問題を生じた場合は、男性に比べて、日常生活や家庭生活への影響が出やすいと考えられる。遊技金額は少額でも、家計からの持ち出しとなり、強い罪悪感を持って相談につながる方もいる。収入形態が扶養や給付の人たちでは、金銭問題を家族や周囲の人たちに気付かれたくないという思いが強い。このため、周囲の人に知られることなく相談ができる、地域とつながりの薄い匿名の専門相談機関の存在は重要である。

パチンコ・パチスロ以外に関連した問題については、初回相談2065件から不明・拒否を除いた1656件のうち、70%が「問題なし」と回答した。「問題あり」と回答した501件(複数回答のため回答数は556)の相談では、うつ病や統合失調症など狭義の精神疾患が最も多く、アルコールや薬物関連問題などの他の依存関連問題との合併が極めて少なかった。諸外国の報告に見られるようなアルコールや薬物問題の合併ケースが、相談者の中では非常に少ないのが特徴である。

パチンコ・パチスロののめり込みを起しやすいため人たちの特徴なのか、アルコールや薬物問題を重複する人たちはRSN電話相談を利用することが少ないためなのかについては定かではない。DVや虐待に関連する問題の重複も一定数把握されており、深刻な関連問題として注意が必要である。一般的に、DV問題と児童虐待は併存しやすく、車内放置事故による子どもの犠牲を防ぐ視点からも、見落とさないように相談員は気をつけている。相談者にDV被害の相談先情報の提供を行うだけでなく、女性相談所や児童相談所にもばちんこののめり込みについて知ってもらえるように情報の提供にも取り組んでいる。

総件数と月別相談件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2006年度	110	102	82	86	119	90	87	57	38	93	54	71	989
2007年度	72	68	52	50	66	93	72	56	33	46	63	175	846
2008年度	103	114	90	113	98	94	92	83	85	95	108	112	1187
2009年度	128	128	128	124	112	120	103	79	71	70	115	127	1305
2010年度	117	133	125	93	95	120	113	87	66	68	79	89	1185
2011年度	88	93	98	60	83	94	84	96	95	135	97	105	1128
2012年度	96	95	102	125	159	235	343	330	238	273	282	284	2562
総計	714	733	677	651	732	846	894	788	626	780	798	963	9202

感に反映している。相談者ののめり込んでいる機種比率と一般ユーザーの遊技比率は近似しており、機種によるのめり込み問題の発生リスクは認められなかった。のめり込んでいる機種の性別比較では、女性はパチンコののめり込みが多く、男性はパチスロののめり込みが多かった。のめり込み問題への介入や対策を講じるうえで、性別による遊技機種の嗜好性の違いは重要な要素と考えられる。

図1 相談件数の推移

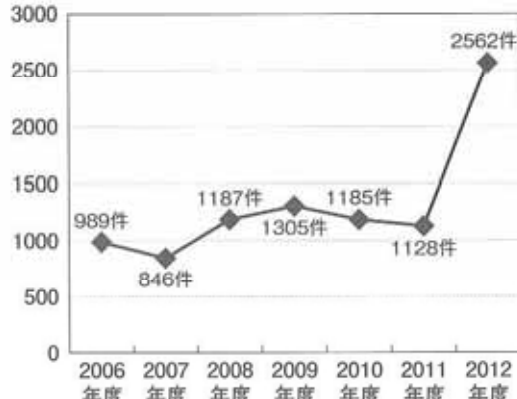


表1 相談者の関係性

コーラー関係性	2011年度	2012年度
本人	679 (76)	1710 (83)
家族・友人	205 (23)	339 (16)
ホール関係者	1 (0)	2 (0)
援助者	8 (1)	14 (1)
不明・拒否	0 (0)	0 (0)
総計	893	2065

(初回相談者のみ、カッコ内%)

相談者の40%が問題を感じ始めて1~2年で相談してきており、問題化して最近(1, 2年)~5年の相談者が70%を占めていた。問題化して10年以上の相談者も30%おり、遊技開始早期で問題を生じ、その後問題を抱えながら遊技を続けているユーザーも少なくないようである。本人が問題を感じてから比較的短期間で問題解決の支援を求め行動するという事実は大変重要である。

表2 相談者の年齢

年齢	2011年度	2012年度
10歳未満	0 (0)	0 (0)
10代	10 (1)	45 (2)
20代	172 (19)	451 (22)
30代	235 (27)	566 (28)
40代	231 (26)	461 (22)
50代	136 (15)	315 (15)
60代	90 (10)	177 (9)
70代	16 (2)	44 (2)
80代	2 (0)	6 (0)
90代以上	0 (0)	0 (0)
不明・拒否	1 (0)	0 (0)
総計	893	2065

(初回相談者のみ、カッコ内%)

表3 相談者の相談経路

経路	2011年度	2012年度
ホール内ポスター	568 (64)	1113 (54)
新聞	30 (3)	24 (1)
インターネット	127 (14)	293 (14)
T V	8 (1)	3 (0)
雑誌	4 (0)	113 (6)
他の相談機関	49 (6)	39 (2)
その他	66 (7)	332 (16)
不明・拒否	41 (5)	148 (7)
総計	893	2065

(初回相談者のみ、カッコ内%)

表4 一カ月の遊技金額

金額	2011年度	2012年度
5万円未満	135 (29)	329 (26)
5~10万円未満	169 (36)	424 (34)
10~15万円未満	81 (17)	228 (18)
15~20万円未満	39 (8)	111 (9)
20万円以上	47 (10)	169 (13)
総計	471	1261

(初回相談者本人のみ、中断・不明除く、カッコ内%)

表5 借金の有無 貸玉の種類との関連(2012年度)

種類	有	無	総計
通常貸玉	346 (53)	356 (55)	702 (54)
低貸玉	78 (12)	126 (19)	204 (15)
両方	233 (35)	169 (26)	402 (31)
総計	657	651	1308

(初回相談者本人のみ、中断・不明除く、カッコ内%)

遊技頻度は、相談者(本人)の44%が「ほぼ毎日」参加し、週3回以上を加えると70%を超えていた。参加頻度の高いユーザーはのめり込み問題が生じる危険性が高く、既にのめり込みの問題が生じている可能性が高いと考えられる。ただ、「週に1~2回」であっても、相談につながるユーザーが28%おり、遊技参加頻度だけでは問題の軽重は図りにくい。

1カ月の遊技金額(負け金額)では、今年度は「20万円以上」遊技する高額ユーザーを含め、10万円以上のユーザーが増加していた。一般ユーザー全体においてヘビーユーザー化が進んでいることが遊技金額の増加と関連しているのかもしれない(表4)。

主に遊技する貸玉の種類では、通常貸玉の利用者は53%と年々減少しており、両方を含めると低貸玉の利用者が

増加してきている。遊技業界の分析では、一般ユーザー全体で見ると、低貸玉のユーザーは、ビギナーでレジャー志向を持つ低頻度、少額投資の人に多いとされているが、RSNの相談においては、通常貸玉と低貸玉を使い分けながら、問題ある遊技を持続している人たちが低貸玉及び両方に数多く含まれていると考えられる。お金はないが遊技は続けるという問題ユーザーの特徴を現している可能性がある。

借金の有無については、「あり」と回答したのは51%であった。問題ギャンブル簡易評価の設問に借金の項目があり、その集計では過去の借金を含めると借金の経験者は85%に上った。金銭問題は最も自覚しやすい問題の一つであり、相談につながる最大の動機となっている。一方で、現在借金が無いにも関わらず49%の方が相談につな

がっていた。借金をするには至らないが、金銭的な困窮や生活不安を感じている相談者は多く、表面化しにくい金銭問題が生活に与えている影響は大きい。借金の有無を年代別に比較したところ、「借金あり」と答えた年代で最も多かったのは30代(29%)で、次いで20代(23%)、40代(20%)であった。10代、40代では、借金「なし」より「あり」と回答した数が多かった。経済的な基盤が弱いだけに、若い世代の借金は深刻化しやすい。また、借金は家族の将来設計にも影を落とし、本人の問題だけでは収まらないため、早期の介入が必要である。借金の有無と貸玉の種類との関連については、低貸玉ユーザーの相談者は借金が無い人が多く(62%)、両方のユーザーの相談者は借金がある人が多かった(58%) (表5)。

問題ギャンブル簡易評価法である

相談件数の増加は、今後のデータ蓄積と分析によって、ばちんこのめり込み問題の特徴をより明らかにしてくれるものと思われる。電話相談という多くの制約ある条件のなかでも、できるだけ多くの情報を収集し、今後の対策に活かすべく取り組んでいる。

◆ SOGSの簡易評価版では、評価が可能であった本人の98%が、SOG S2点以上の問題ギャンブラーであった。「問題レベルとして深刻な段階」の人たち(5点以上)は52%であった。このことから、RSNの電話相談につながってくる相談者のほとんどは、客観的にも問題あるギャンブラーであることがわかる。ばちんこのめり込み問題に関しては、問題が軽い人でも進行した人であっても自ら援助を求める可能性が高いという特徴を示すものである。